食あたり・・・

飯塚支部　　首藤　慶多

飯塚県土整備事務所　河川砂防課の首藤と申します。今回、文章の投稿ということで、今年度から事務所の打ち合わせスペースに設置されました水槽のことについて、書きたいと思います。

（左：カニの住処　　右：魚の住処）

現在、飯塚県土整備事務所の打ち合わせスペースから見えるところに水槽が置かれています。この水槽には現在コイ・カマツカ・オイカワ・スジシマドジョウ etc…といった魚がいます。これらの魚は、飯塚管内を流れている河川より捕ってきており、“遠賀川流域にはこんな魚がいますよ”とアピールしています。また、左側の小さいケースには、カニがいます。これらの魚たちは、ちょっとした息抜きとして観察するのに程よく、気持ちをリフレッシュさせてくれるという癒し効果を発揮してくれています。

（左の水槽のカニ）

さて、タイトルを「食あたり・・・」としましたが、これは私自身のことではなく、ある魚のことです。この水槽では、今までに亡くなった魚達が何匹もいます。死因は、大半が短期間（１～２週間以内）の内であり、またその原因は不明です。病気かな？怪我かな？といった感じです。しかし、１匹だけ異なる原因で死んだと思われる魚がいます。その生き物はナマズであり、そして死因はおそらく「食あたり」です。

ナマズは、捕獲した当初、同じ水槽内の小魚を食べ、他の魚に危害を加え、ケガをさせたため隔離の仕打ちを受けてしまいました。隔離とはいえ、専用の水槽（現在のカニの住処）、専用のえさ（たまに生きた小魚）をもらうといった形で、至れり尽くせりの待遇でした。その甲斐もあり、他の魚同様にスクスクと成長、いや、それ以上の巨体に成長し、私と似たような立派な腹になっていました。

しかし、ある日、上を向いて浮かんでおり、確認すると死んでいたようです（当日、私自身は事務所に不在で、翌日話を聞きました）。なんでも、大きな水槽にいた「ギギ」という魚が死んでいたため、食べるかな？とナマズの水槽に入れてみたとのこと。

（ナマズの口から顔を出している
ギギ（遺体））

（成長（巨大化）したコイ
上は同時期に獲ったオイカワ）

その時のかぶりついた写真が撮影されており、それが左の写真になります。ナマズの口からギギの頭が覗いており、少し残酷な絵ではありますが、ふてぶてしい生き様、その巨体からとても突然死を迎えることを想像していなかったため、ナマズの写真はこれしかない状態です。もう少し写真ぐらいとっておいてもよかったかな…と今更ながら思います。

水槽の中には、当初、他の河川よりオヤニラミなど日ごろ見かけない魚も捕まえてきていましたが、全滅するという悲しい事件もありました。しかし、現在のメンバーは水槽に入れられ数か月経ちますが、元気に生存しています。数か月の時間が経ち、捕まえてきた当初から比べると大きくなったな～、と水槽を見るときにはよく思います。特に、コイに関しては大きくなり過ぎており、他の魚を怯えさせているため、自然に返したほうがいいのかな、と思ったりもします。（実際、河川で発見するコイは体長が現在の水槽より大きいものばかりです）

今から本格的に寒くなり、年末年始は何日間も人の出入りがなくなります。そのため、水温が非常に下がる、餌が無い、何かが原因で停電等で酸素がなくなるといったことが考えられ、はたして冬を乗り越え無事に春を迎えられるか心配のため、対策をみんなで考えたいと思います。

皆様も飯塚県土整備事務所に来られた際には、打ち合わせスペースにある水槽を眺め、魚の種類や成長、変化をぜひ観察して下さい。